

平成 26 年度 校内研修（究）計画書

十和田市立北園小学校

1 学校の教育課題

（1）教育目標

先人の開拓精神に学び、郷土の発展に寄与する人間の育成に努める

創造力があり、未知を切り開く子ども（かしこく）

情操豊かで、意志の強い子ども（やさしく）

体が健康で、たくましい子ども（たくましく）

（2）目標達成上の課題

（かしこく）

① 基礎学力，基礎的・基本的内容の定着

② 思考力・判断力・表現力等の育成

③ 学習環境づくりと学習習慣の確立

（やさしく）

① 思いやりの心の育成

② 基本的生活習慣の定着

③ 児童の成長・変容を図る工夫

（たくましく）

① 健康を保持増進の態度・習慣の育成

② 基礎的な体力・運動能力の向上

③ 危機回避能力の育成と，安全行動

2 本年度の研究計画

（1）研究主題

しっかりと自分の考えをもち，表現できる子の育成
～算数科における「活用する力をはぐくむ授業づくり」をとおして～

※「しっかりと自分の考えをもち」とは…

課題に対する自分なりの解決方法を既習事項や生活経験等から想起し，解決するための手立てを具体的にイメージできていること。

※「表現できる」とは…

イメージできている自分の考えをノートやワークシートに書き表すことができ，それを相手に説明したり理解させたりすることができること。

(2) 主題設定の理由

① 学習指導要領との関連

学校教育法第30条の第2項では、学力の重要な3つの要素として、「①基礎的・基本的な知識・技能 ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度」を強調している。また、学習指導要領「総則」の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」では、「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに配慮する」ことが述べられている。さらに、学力に関する各種調査の結果では、日本の子どもたちの思考力・判断力・表現力等には依然課題があることが報告され、言語を通じた学習活動を充実させることにより、「思考力・判断力・表現力等」の育成が効果的に図られることが述べられている。

すなわち、本校の教育目標達成上の課題の一部である「思考力・判断力・表現力等の育成」には、「言語活動の充実」を図ることが必須であると考えられる。個を高め合い、お互いが学ぶ喜びを実感し、成就感を味わえる魅力ある学習が成立するためには、「思考力・判断力・表現力等」の向上が重要となる。そこで、「しっかりと自分の考えをもち、表現できる子の育成」を主題とし、本研究に取り組むことで、学校目標の課題解決につながると考えた。

② 児童の実態、学校や地域の課題との関連

本校の児童は、明るく元気で素直な子どもが多い。また、学力向上をめざし平成20年度から始まった「学びたいム」や「家庭学習ガイド」の取り組みの成果として、学力検査等の分析では、全学年・全教科においてほぼ全国平均を上回っている実態がある。このことから、基礎的・基本的な力は着実に定着していると言える。算数科における数値的な課題点を挙げるとすれば、「数学的な考え」が他観点より低いことは、全国的な傾向と同様である。

ここ数年の校内研究は、「対話する力」「表現できる子」をテーマに行われきた。しかし、教師側がとらえる児童の実態として、「自分の考えを説明する力」や「文章問題の事柄や場面を解釈する力」を向上させたい等の意見もある。学んだことをそのまま覚えたり、繰り返し練習で身に付けたりすることは得意であるが、新しい考えを生み出したり、自己主張をしたりすることに関しては、まだまだ苦手に行っている子が少なくない。

そこで、さらに上をめざし、より積極的な学習ができる子を育てるためには、しっかりと自分の考えをもたせ、それを表現させることにポイントを絞って指導していくことが大切だと考え、この方向で研究に取り組むこととした。

③ これまでの研究の成果と課題との関連

本校では、平成21年度の「放送教育研究大会」に向けた研究から数年間「対話する力」の育成に焦点をしばって取り組んできた。「話し合いの視点」や「身につけさせたい話し合う力」を明確にしながらか交流活動に取り組んできた結果、教師も児童も日常的に意識しながら授業実践できるようになった。児童アンケート等でも、「話し合うこと」に関して変容が見られ、意識の向上も確認できた。日々の授業においても、進んで意見交流できる子が増え、時には、厳しく意見をやり取りする場面も見られるようになってきた。

しかし、いまだ話し合い活動に参加できずにいる児童も確認される。主な原因を「自分の考えを確立できていない」ととらえ、昨年度からは算数科をパイロット教科にし、全ての子が

話し合い活動に参加できるようにすることをめざした。前提となる「しっかりと自分の考えをもたせる」ために、自力解決で自信をもたせる指導・支援の工夫を行い、一定の成果を得ることができた。今年度は、さらに意欲的に表現に取り組むために、「活用する力をはぐくむ」ことを関連づけて、本研究主題を設定し、研究に取り組むこととした。

(3) 研究目標

しっかりと自分の考えをもち、表現できる子を育てるためには、問題提示、自力解決及び交流活動の場面を通して、活用する力をはぐくむ工夫をすることが有効であることを、算数科の授業実践において明らかにする。

(4) 研究仮説

仮説1 課題把握の段階において、「活用する力を要する問題」の教材開発や問題提示の工夫を行うことによって、意欲的に課題解決へ取り組むであろう。

仮説2 自力解決の段階において、ICT機器・ヒントカード・記録シート等の工夫を行うことによって、自分の考えに自信をもち課題解決に取り組むであろう。

仮説3 課題把握や全体交流の段階において、ペア・グループ等学習形態に変化や記録カード等の工夫を行うことによって、積極的な意見交流ができるであろう。

(5) 仮説の検証に向けて

- ① 検証授業において、仮説に関する手だてが適切だったかどうか検討する。
- ② 抽出児童の普段の様子と検証授業での様子の違いを観察し、仮説に関する手だてが適切だったかどうか検討する。
- ③ 6月と12月に「しっかりと自分の考えをもつこと」「表現できること」に関する「児童の実態調査」を実施し、その変容を比較・検討する。
- ④ 6月と12月に「活用する力」に関するパフォーマンステストを実施し、その変容を比較・検討する。
- ⑤ CRT等各種調査において、「数学的な考え」の観点の変容を検討する。
- ⑥ 「学びたいム」や「朝自習」の時間に、「活用する力を要する問題」を行い、本研究主題育成への足場づくりとする。

【授業の指導過程】

過程	主な学習内容 支援	活用する力（考える力・表現する力）
I 課題把握	1 教材や学習問題との出会い ・興味、関心をひきつけるような教材提示や課題設定 ・視覚化（図、写真、動画）の問題提示 ・子どもの身近なものを取り上げる ・課題意識のもたせ方の工夫 2 見通しをもつ ・「できそうだ」と思える見通しのもたせ方 ・既習課題との違いへの気づかせ方 ・自分なりの解決方法を、ペアやグループで交流させる	①情報を整理・選択する力 ・数学的な意味としてとらえることができる力 ・問題文や情景図からできそうだと認識できる力 ・問題場面をイメージして、言えたり書けたりする力 ・「何を求めるか」をとらえることができる力 ②情報と既習事項を関連付ける力 ・課題を解くのに必要な数値や大切な文に気づく力 ・これまでの学習で似たもの、違うものがあつたことに気づく力 ③解決への見通しをもつ力 ・求めるためには何が必要なのか、求め方・求める材料を選び、理由、根拠を示すことができる力 ・いらない情報を排除できる力 ・演算決定ができる力
II 自力解決	3 自力解決する ・つまづいている子への支援の仕方 ・ヒントの出し方、ヒントカードを渡し方 ・具体物等の準備 ・わかりやすいワークシートの活用 ・実物、絵、半具体物（おはじき、ブロック等）、図、グラフ、文字、記号、などを用いての解かせ方	④自分の考えを数学的に表現する力（個人） ・既習事項と関連付けて考える力 ・既習の図やグラフ、表などを用いて、問題場면을整理して考えることができる力 ・選び出した数や言葉を、適切な筋道で組み合わせることができる力 ・自分の考えの根拠を示すことができる力
III 全体交流	4 全体での学び合い ・学習課題の解決 ・解決方法について話し合いの形態 ・合理的な方法への意見集約	④自分の考えを数学的に表現する力（全体） ・順序立てて自分の考えを示すことができる力 ・自分の考えを図、式、言葉でかき表し、説明する力 ・自分の考えを見直し、問題点や新たな視点に気付くことができる力
IV まとめ	5 まとめる ・分かったことを、算数の用語を使ってまとめる 6 確かめる ・練習問題を解く ・発展問題を解く ・応用、活用問題を解く	・一般化を図ることができる力 ・生活場面に生かす力 ・数値や文章を入れかえた練習問題を解く力 ・学習したことを使って応用的な問題を解決する力

(6) 研究日程

月 日	内 容	方法	教科 領域	要請指導主事
4月11日 (金)	前年度の研究の概要説明と今年度の研究の予定	全体協議		
4月18日 (金)	研究主題・目標・仮説・検証方法・研究日程について①	全体協議		
5月14日 (水)	研究主題・目標・仮説・検証方法・研究日程について②	全体協議		
5月23日 (金)	指導案の様式，めざす児童像の設定，実態調査の項目の検討	全体協議		
6月11日 (水)	検証授業の指導案検討会計画，研修部提案授業の指導案検討	全体協議		
7月4日 (金)	研修部提案授業 授業者 高橋 誠	全体協議	算数	
夏季休業中	検証授業の指導案の作成	学年部会		
9月10日 (水)	4年検証授業 授業者 島田 博士	全体協議	算数	上北教育事務所 指導主事 太田 浩之 先生
9月19日 (金)	5年検証授業 授業者 佐々木 章 弘	全体協議	算数	十和田市教育委員会 指導課長補佐 藤田 誠志 先生
10月3日 (金)	2年検証授業 授業者 山形 暁子	全体協議	算数	三沢市立第三中学校 校 長 工藤 正彦 先生
10月29日 (水)	前期校内研究の反省	全体協議		
11月12日 (水)	3年検証授業 授業者 奈良 琢磨	全体協議	算数	上北教育事務所 指導主事 太田 浩之 先生
12月3日 (水)	6年検証授業 授業者 小林 忠輝	全体協議	算数	十和田市教育委員会 指導課長補佐 藤田 誠志 先生
12月12日 (金)	1年検証授業 授業者 加賀 千裕	全体協議	算数	三沢市立第三中学校 校 長 工藤 正彦 先生
1月28日 (水)	今年度の研究の反省	全体協議		
2月6日 (金)	次年度の研究の方向づけ①	全体協議		
3月6日 (金)	次年度の研究の方向づけ②	全体協議		

3 研修計画

(1) 研修の重点

- ① 教育活動をより良いものにできるような専門的な知識や技能を身につける。
- ② 先進的な研究に取り組んでいる学校の情報を，全教職員で共有する。

(2) 研修日程

月日	内 容	方法	教科 領域	要請指導主事等
5月30日	視聴覚機器の使用方法	講義 実技	視聴覚	校内講師 教諭 小林 忠輝
8月29日	示範授業	公開 授業	道徳	校内講師 教諭 三浦 亜希子
1月13日	不登校傾向児童への対応	講義	教育 相談	十和田市教育研修センター 中村 陽子 先生
1月16日	各種研修会等報告会	報告	各教科	報告者：1月までに県外研修に派遣された人

本主題での研究 1年目		研究教科等	算 数
研修主任	高 橋 誠	研究指定の有無	<p style="text-align: center;">(有) ・ 無</p> <p style="text-align: center;">十和田市小学校学習指導研究会 指定期間 平成26年度～平成27年度 (平成27年度 公開発表)</p>